

令和2(2020)年度決算 財務の概要

①貸借対照表の状況

- ・令和2(2020)年度末の総資産は18,492,378千円(前年度比で188,734千円の減少)、総負債は684,902千円(前年度比で58,927千円の増加)となり、その結果、純資産は17,807,475千円(前年度比で247,661千円の減少)となった。
- ・有形固定資産については、施設・設備の更新等で58,090千円増加したが、減価償却額および固定資産処分差額の合計で332,493千円計上したことにより、全体として274,402千円の減少となった。
- ・基本金については、設備の除却に伴い第1号基本金1,427,523千円を取り崩したことにより、本年度末の基本金残高は25,168,960千円、未組入高は27,590千円となった。

②資金収支計算書の状況

ア)資金収支計算書

- ・本年度の資金収入(繰越支払資金除く)は1,717,467千円となり、前年度比で105,463千円の収入増となった(前年度は1,612,004千円)。増加項目と減少項目によって収入全体は構成されるが、増加した主な内容は、学生生徒等納付金収入122,783千円、補助金収入42,850千円が前年度比でそれぞれ増加したことによるものである。
- ・本年度の資金支出(繰越支払資金除く)は1,649,547千円となり、前年度比で54,483千円の支出増となった(前年度は1,595,064千円)。増加項目と減少項目によって支出全体は構成されるが、増加した主な内容は、人件費支出36,104千円、教育研究経費支出116,282千円が前年度比でそれぞれ増加したことによるものである。

以上の結果、当年度の資金収支差額は67,920千円の収入超過(前年度は16,939千円の収入超過)となり、翌年度繰越支払資金は1,647,905千円、前年度比で67,920千円増となった。

イ)活動区分資金収支計算書

本業である教育活動による資金収支差額は、プラス117,477千円となり、前年比で21,484千円のプラスの改善となった(前年度はプラス95,993千円)。

③事業活動収支計算書の状況

- ・本年度の事業活動収入は1,675,964千円となり、前年度比で163,657千円の増加となった。主な内容は、東京メディア芸術学部に係る学年進行による学生数の増により、学生生徒等納付金収入が前年度比で122,783千円増加したことによるものである。
- ・本年度の事業活動支出は1,923,625千円となり、前年度比で141,077千円の増加となった。増加項目と減少項目によって支出全体は構成されるが、増加した内容は人件費

29,579千円(退職給与引当金繰入額を除く)、教育研究経費107,027千円が前年度比でそれぞれ増加したことによるものである。

なお、教育研究経費の増加の主な要因のひとつは、高等教育の修学支援にかかる新制度によるものである(経費と見合いの補助金収入も増加している)。

また、管理経費については前年度比で28,774千円減少している(減少の要因となった主な内容のひとつは、広報費の執行内容の見直しによるものである)。

以上の結果、基本金組入前当年度収支差額は247,661千円の支出超過(前年度は270,241千円の支出超過)、当年度収支差額は247,661千円の支出超過(前年度は319,664千円の支出超過)となり、前年度比で支出超過のマイナス額が改善された。